

会報

第121号



公益社団法人
日本海海難防止協会

目 次

I 事業報告

I-1	調査研究.....	1
1	18万m ³ 級モス型LNG運搬船の直江津港入出港に係る調整会議.....	1
1-1	第1回調整会議.....	1
1-2	ビジュアル操船実験.....	1
1-3	作業部会.....	2
2	舞鶴港大型客船入出港に係る航行安全調査.....	3
2-1	第2回委員会.....	3
2-2	ビジュアル操船実験.....	4
2-3	作業部会.....	4
2-4	第3回委員会.....	4
3	新潟港(東港区)大型客船入出港に係る航行安全調査.....	5
3-1	作業部会.....	5
3-2	第2回調査会.....	5
4	日本海中部海域における簡易型AIS普及に関する調査研究(富山・石川県地区).....	6
4-1	第1回委員会.....	6
5	伏木富山港(伏木地区)大型客船入出港に係る航行安全調査.....	7
5-1	第1回委員会.....	7
6	青森港大型客船入出港に係る航行安全調査.....	8
6-1	第1回委員会.....	8
7	青森港港湾計画変更(一部変更)に係る航行安全対策調査.....	9
7-1	委員会.....	9
8	秋田港火力発電所(仮称)建設計画に係る航行安全調査.....	10
8-1	第1回委員会.....	10
9	秋田港大型客船入出港に係る航行安全調査.....	11
9-1	第1回委員会.....	11

I - 2	平成 29 年度事業推進連絡会議	12
I - 3	全国海難防止強調運動の推進	13
1	日本海中部地方海難防止強調運動推進連絡会議	13
2	東北地方海難防止強調運動推進連絡会議	15
3	海難防止強調運動日本海西部地方推進連絡会議	17
II	会 務 報 告	
II - 1	平成 29 年度第 1 回理事会	18
II - 2	平成 29 年度通常総会	20
II - 3	平成 29 年度第 2 回理事会	23
II - 4	業務日誌抄	24
II - 5	業務予定	25
III	寄 稿 欄	
	神祖熊野大神奇御食野尊という神様	26
	敦賀港の海図が新しくなりました	31
	“あなたの命を守るため、救命胴衣の着用を”	32
	大型船漂流による乗揚げ防止のために	33
	10 月は全国漁船安全操業推進月間です！	35

日本海海難防止協会は、本州日本海沿岸(山口県を除く)及び付近水域における、海上交通の安全に寄与するため、次の事業を行っております。

- (1) 船舶の航行安全及び海難防止に関する事項の調査研究
- (2) 船舶の航行安全に関する教育指導及び情報の提供
- (3) 海難防止に関する事項の周知宣伝
- (4) その他本協会の目的を達成するために必要な事業



【公益社団法人 日本海海難防止協会が行う事業区域図】

アクセス

○新潟駅(JR 信越線)から

徒歩 約 25 分、タクシー利用 約 10 分、
バス利用 新潟交通 北ふ頭 約 20 分

北ふ頭 停留所下車徒歩約 5 分

○新潟空港から

タクシー利用 約 20 分、バス利用 北ふ頭 約 20 分

○車

国道 113 号線竜が島郵便局前交差点を左折直進、
信号を一つ通過後右折し約 50m



I 事業報告

I-1 調査研究

1 18万³m³級モス型LNG運搬船の直江津港入出港に係る調整会議

調整会議の構成

(順不同・敬称略)

「水先人」

小坂 徳夫 新潟水先区水先人会 会長

「海事有識者」

矢吹 英雄 東京海洋大学 名誉教授

高橋 勝 海上保安大学校 名誉教授

森山 和基 一般社団法人日本船長協会 常務理事

伊藤 則彦 日本海曳船株式会社 常務取締役

「関係官公庁」

第九管区海上保安本部 交通部

上越海上保安部

1-1 第1回調整会議

- (1) 実施日：平成29年5月10日(水)
- (2) 場所：上越市 ホテルセンチュリーイカヤ
- (3) 議題：
 - ① 調査・検討の計画について
 - ② 対象バース及び対象船舶について
 - ③ ビジュアル操船実験方案について

1-2 ビジュアル操船実験

- (1) 実施日：平成29年6月14日(水)～15日(木)
- (2) 場所：川崎市 株式会社日本海洋科学シミュレーションセンター

1-3 作業部会

- (1) 実施日：平成29年8月29日(火)
- (2) 場所：新潟市 ANAクラウンプラザホテル新潟
- (3) 議題：
 - ① ビジュアル操船実験結果について
 - ② 入出港操船の安全性（案）について

2 舞鶴港大型客船入出港に係る航行安全調査

委員会の構成

(順不同・敬称略)

「委員」

(委員長)	寺本 定美	海上保安大学校 名誉教授
	遠藤 真	富山高等専門学校 名誉教授
	小島 茂	一般社団法人日本船長協会 会長
	上野 善洸	舞鶴水先区水先人会 会長
	田端 昭則	飯野港運株式会社 常務取締役
	久保 勝	舞鶴倉庫株式会社 取締役舞鶴事業部長
	小東 雅幸	日本通運株式会社 舞鶴海運支店長
	原 正朗	ジャパンマリンユナイテッド株式会社 舞鶴事業所
	近江 喜彦	新日本海フェリー株式会社 舞鶴支店長
	菱田 純	関西電力株式会社 舞鶴発電所計画課長
	鍵本 房男	舞鶴曳船株式会社 代表取締役
	西川順之輔	京都府漁業協同組合 代表理事組合長
	山田 悦子	京都府小型船安全協会 事務局長

「関係官公庁」

第八管区海上保安本部 交通部
舞鶴海上保安部
近畿地方整備局 舞鶴港湾事務所
京都地方気象台
海上自衛隊舞鶴地方総監部
舞鶴市産業振興部

2-1 第2回委員会

- (1) 開催日：平成29年6月9日(金)
- (2) 場所：舞鶴市 舞鶴グランドホテル
- (3) 議題：
 - ① 第1回委員会の質疑への対応について
 - ② 操船シミュレーションによる検討について
 - ③ 係留の安全性について

2-2 ビジュアル操船実験

- (1) 実施日：平成29年7月3日(月)～4日(火)
- (2) 場所：川崎市 株式会社日本海洋科学シミュレーションセンター

2-3 作業部会

- (1) 開催日：平成29年8月3日(木)
- (2) 場所：舞鶴市 舞鶴グランドホテル
- (3) 議題：
 - ① 第2回委員会の質疑への対応について
 - ② 入出港操船の安全性について
 - ③ 航行安全対策案について

2-4 第3回委員会

- (1) 開催日：平成29年8月22日(火)
- (2) 場所：舞鶴市 舞鶴グランドホテル
- (3) 議題：
 - ① 第2回委員会の質疑への対応について
 - ② 入出港操船の安全性について
 - ③ 航行安全対策について
 - ④ 報告書構成案について

3 新潟港(東港区)大型客船入出港に係る航行安全調査

調査会の構成

(順不同・敬称略)

「委員」			
(委員長)	南 清和	東京海洋大学	教授
	池田 英治	海上保安学校	名誉教授
	久古 弘幸	一般社団法人日本船長協会	副会長
	小坂 徳夫	新潟水先区水先人	会長
	菅原 裕之	新潟港船舶代理店会	事務局
	伊藤 則彦	日本海曳船株式会社	常務取締役
「関係官公庁」			
	第九管区海上保安本部 交通部		
	新潟海上保安部		
	北陸地方整備局 新潟港湾・空港整備事務所		
	新潟地方気象台		

3-1 作業部会

- (1) 開催日：平成29年6月20日(火)
- (2) 場所：新潟市 ANAクラウンプラザホテル新潟
- (3) 議題：
 - ① 第1回調査会の質疑への対応について
 - ② 操船の安全性(操船シミュレーション結果)について
 - ③ 係留の安全性について
 - ④ 航行安全対策案について

3-2 第2回調査会

- (1) 開催日：平成29年7月21日(金)
- (2) 場所：新潟市 ANAクラウンプラザホテル新潟
- (3) 議題：
 - ① 第1回調査会の質疑への対応について
 - ② 操船の安全性(操船シミュレーション結果)について
 - ③ 係留の安全性について
 - ④ 航行安全対策について
 - ⑤ 報告書構成案について

4 日本海中部海域における簡易型AIS普及に関する調査研究(富山・石川県地区)

委員会の構成

(順不同・敬称略)

「委員」

(委員長) 日當 博喜 海上保安大学校 名誉教授
妙木 恵一 日本小型船舶検査機構 金沢支部長
神田 修二 伏木水先区水先人会 会長
木下 博 七尾水先区水先人会 会長
佐丸 樹人 富山県漁業協同組合連合会 参事
虎間 優 石川県漁業協同組合 参事
高野 浩昌 富山県小型船交通安全協会 副会長
岡川純一郎 NPO法人石川県小型船安全協会 会長

「関係官公庁」

第九管区海上保安本部 交通部
伏木海上保安部
金沢海上保安部
七尾海上保安部
北陸総合通信局無線通信部
北陸信越運輸局 富山運輸支局
北陸信越運輸局 石川運輸支局(七尾庁舎)
水産庁 新潟漁業調整事務所
水産庁 境港漁業調整事務所
富山地方气象台
金沢地方气象台
富山県農林水産部 水産漁港課
石川県農林水産部 水産課

4-1 第1回委員会

- (1) 開催日：平成29年6月27日(火)
- (2) 場所：富山市 ANAクラウンプラザホテル富山
- (3) 議題：
 - ① 調査・研究の計画(案)について
 - ② 海難の状況について
 - ③ 気象・海象の状況について

5 伏木富山港(伏木地区)大型客船入出港に係る航行安全調査

委員会の構成

(順不同・敬称略)

「委員」

(委員長) 日當 博喜 海上保安大学校 名誉教授
遠藤 真 富山高等専門学校 名誉教授
久古 弘幸 一般社団法人日本船長協会 副会長
神田 修二 伏木水先区水先人会 会長
川西 邦夫 伏木海陸運送株式会社 代表取締役社長
久保啓二郎 北陸海事株式会社 取締役

「関係官公庁」

第九管区海上保安本部 交通部
伏木海上保安部
北陸地方整備局 伏木富山港湾事務所

5-1 第1回委員会

- (1) 開催日：平成29年7月13日(木)
- (2) 場所：富山市 ANAクラウンプラザホテル富山
- (3) 議題：
 - ① 大型クルーズ客船の入港計画について
 - ② 調査・検討の計画(案)について
 - ③ 伏木富山港の現況について
 - ④ 周辺の航行環境について
 - ⑤ 操船に係る基礎検討について
 - ⑥ 操船シミュレーションによる検討方案について

6 青森港大型客船入出港に係る航行安全調査

委員会の構成

(順不同・敬称略)

「委員」
(委員長) 矢吹 英雄 東京海洋大学 名誉教授
池田 英治 海上保安大学校 名誉教授
久古 弘幸 一般社団法人日本船長協会 副会長
成田 公美 青森港水先人会 水先人
千葉 康貴 日本通運株式会社 青森支店青森中央事業所 海運・倉庫グループ 係長
「関係官公庁」
第二管区海上保安本部 交通部
青森海上保安部
東北地方整備局 港湾空港部
東北地方整備局 青森港湾事務所
青森地方気象台

6-1 第1回委員会

- (1) 開催日：平成29年7月25日(火)
- (2) 場所：青森市 青森国際ホテル
- (3) 議題：
 - ① 大型クルーズ客船の入港計画について
 - ② 調査・検討の計画(案)について
 - ③ 青森港の現況について
 - ④ 操船に係る基礎検討について
 - ⑤ 操船の安全性の検討について

7 青森港港湾計画変更(一部変更)に係る航行安全対策調査

委員会の構成

(順不同・敬称略)

「委員」

(委員長) 矢吹 英雄 東京海洋大学 名誉教授
池田 英治 海上保安大学校 名誉教授
久古 弘幸 一般社団法人日本船長協会 副会長
成田 公美 青森港水先人会 水先人
千葉 康貴 日本通運株式会社 青森支店青森中央事業所
海運・倉庫グループ 係長
對馬 義彦 青森通運株式会社 港運倉庫部長
柴田 直光 青森県漁業協同組合連合会 指導課
高橋 弘一 青森県小型船舶安全協会 会長

「関係官公庁」

第二管区海上保安本部 交通部
青森海上保安部
東北地方整備局 港湾空港部
東北地方整備局 青森港湾事務所
青森地方气象台

7-1 委員会

- (1) 開催日：平成29年7月26日(水)
- (2) 場所：青森市 青森国際ホテル
- (3) 議題：
 - ① 調査・検討の概要について
 - ② 港湾計画変更(一部変更)の計画について
 - ③ 青森港の現況について
 - ④ 周辺の航行環境について
 - ⑤ 航行の安全性について
 - ⑥ 航行安全対策について
 - ⑦ 報告書構成案について

8 秋田港火力発電所(仮称)建設計画に係る航行安全調査

委員会の構成

(順不同・敬称略)

「委員」

(委員長) 矢吹 英雄 東京海洋大学 名誉教授
池田 英治 海上保安大学校 名誉教授
岡崎 忠胤 東京海洋大学大学院 教授
久古 弘幸 一般社団法人日本船長協会 副会長
野村 治彦 秋田船川水先区水先人会 水先人
西宮 公平 秋田海陸運送株式会社 代表取締役社長
柏屋 敬 日本通運株式会社 秋田港支店 支店長
西宮 公平 秋田曳船株式会社 代表取締役社長
大槻健太郎 東北電力株式会社 秋田火力発電所 所長
藤田 博英 秋田県漁業協同組合 代表理事組合長

「関係官公庁」

第二管区海上保安本部 交通部
秋田海上保安部
東北地方整備局 港湾空港部
東北地方整備局 秋田港湾事務所
秋田地方气象台
秋田県 建設部港湾空港課
秋田県 秋田港湾事務所

8-1 第1回委員会

- (1) 開催日：平成29年8月24日(木)
- (2) 場所：秋田市 ホテルメトロポリタン秋田
- (3) 議題：
 - ① 秋田港火力発電所(仮称)建設計画について
 - ② 調査・検討の計画(案)について
 - ③ 秋田港の現況について
 - ④ 航行環境について
 - ⑤ 操船に係る基礎検討について
 - ⑥ 操船シミュレーションによる検討方案について
 - ⑦ 係留の安全性の検討について

9 秋田港大型客船入出港に係る航行安全調査

委員会の構成

(順不同・敬称略)

「委員」

(委員長) 矢吹 英雄 東京海洋大学 名誉教授
池田 英治 海上保安大学校 名誉教授
岡崎 忠胤 東京海洋大学大学院 教授
久古 弘幸 一般社団法人日本船長協会 副会長
高橋 福治 秋田船川水先区水先人会 会長
西宮 公平 秋田海陸運送株式会社 代表取締役社長
柏屋 敬 日本通運株式会社 秋田港支店 支店長
西宮 公平 秋田曳船株式会社 代表取締役社長

「関係官公庁」

第二管区海上保安本部 交通部
秋田海上保安部
東北地方整備局 港湾空港部
東北地方整備局 秋田港湾事務所
秋田地方气象台

9-1 第1回委員会

- (1) 開催日：平成29年8月25日(金)
- (2) 場所：秋田市 ホテルメトロポリタン秋田
- (3) 議題：
 - ① 大型クルーズ客船の入港計画について
 - ② 調査・検討の計画(案)について
 - ③ 秋田港の現況について
 - ④ 操船に係る基礎検討について
 - ⑤ 操船の安全性の検討について

I-2 平成29年度事業推進連絡会議

- (1) 開催日：平成28年5月25日(木)
- (2) 場所：新潟市 ANAクラウンプラザホテル新潟
- (3) 出席者：下表のとおり
- (4) 議題：
- ① 航行安全及び海難防止に関する調査研究について
 - ② 海難防止に関する周知宣伝について
 - ③ 航行安全に関する情報交換について
 - ④ その他

出席者名簿

(順不同・敬称略)

構成機関・団体	役職等	氏名
第二管区海上保安本部交通部	航行安全課長 安全対策課 安全対策調整官	江野 徹 柴山 智司
第八管区海上保安本部交通部	安全対策課長 航行安全課 海務係	桜川 正人 西尾 亮太
第九管区海上保安本部交通部	航行安全課長 航行安全課 専門官 安全対策課 安全対策調整官 " 安全対策第二係	安光 良博 首藤 学 三國登志夫 須永 直樹
第九管区海上保安本部海洋情報部	監理課長 監理課 専門官	鐘尾 誠 佐々木高文
(公財)海上保安協会新潟地方本部	事務局長	高野 成二
新潟県水難救済会	事務局長	西片富士夫
(公社)日本海海難防止協会	専務理事 総務部長 事業部 主任研究員 事業部 調査員	安藤 眞博 木原 弘昭 檜ヶ谷正道 花棚 景子

I-3 全国海難防止強調運動の推進

1 日本海中部地方海難防止強調運動推進連絡会議

- (1) 開催日：平成29年6月13日(火)
- (2) 場所：新潟市 ANAクラウンプラザホテル新潟
- (3) 出席者：別記のとおり
- (4) 会議次第：
 - ① 主催者挨拶
第九管区海上保安本部 交通部長
 - ② 議 事
平成29年度日本海中部地方海難防止強調運動実施計画
 - ③ 連絡事項
 - イ 第九管区海上保安本部 交通部
第九管区海上保安本部の取り組み
 - ロ 新潟海上保安部 交通課
新潟海上保安部における活動
 - ハ 北陸信越運輸局 海事部
船舶職員及び小型船舶操縦者法施行規則の改正等
 - ニ 信越総合通信局 無線通信部
船舶の安全航行のための無線システム
 - ホ 新潟漁業調整事務所
水産庁が行う漁船海難防止のための取り組み
 - ヘ 新潟地方气象台
海上予警報の改善
 - ト その他

別 記

出席者名簿

(順不同・敬称略)

構成機関・団体		役 職 等	氏 名	
官 公 庁 機 関	信越総合通信局 無線通信部	航空海上課長	合志 治彦	
	北陸信越運輸局 海事部	船員労働環境・海技資格課長 首席運航労務監理官	高橋 良一 北口 和敏	
	北陸地方整備局 新潟港湾・空港整備事務所	沿岸防災対策官	渡辺 朋洋	
	新潟地方气象台	気象防災情報調整官	斎藤 寿秋	
	水産庁 新潟漁業調整事務所	漁業監督課長 漁業監督課 係長	高木 昭彦 松田 なつき	
	新潟県防災局		(欠)	
	新潟県警察本部 地域部	地域課 船舶係 副参事 地域課 災害雑踏係長	若槻 伸一 新保 秀登	
関 係 団 体	船員災害防止協会 北陸信越支部	事務局長	江口 孝	
	公益社団法人 北陸信越海事広報協会	事務局長	大井戸佐紀夫	
	北陸信越旅客船協会	常務理事	土井 秀樹	
	一般財団法人日本気象協会 新潟支店	支店長	三嶋 宣明	
	日本小型船舶検査機構 新潟支部		(欠)	
	一般社団法人日本海事検定協会 新潟事業所	所長	糟谷 功一	
	全日本海員組合 新潟支部		(欠)	
	新潟県港湾協会	事務局 (新潟県港湾整備課 主事)	中村 翼	
	新潟県水難救済会	事務局長	西片富士夫	
	新潟県漁業協同組合連合会		(欠)	
	新潟内航海運組合	理事長	山田 一則	
	新潟水先区水先人会	会長	小坂 徳夫	
	新潟海洋少年団	団長	佐藤 勝	
PW安全協会 新潟支部	PWSA事務局	坂井 雄一		
新潟県セーリング連盟		(欠)		
主 催	第九管区海上保安本部	交通部	交通部長 安全対策課長 航行安全課 専門官 安全対策課 安全対策調整官 安全対策課 安全対策第一係長 安全対策課 専門員	花野 一誠 横山 禎 首藤 学 三國登志夫 森本 真人 須永 直樹
		警備救難部	救難課 専門官	中尾 正秀
	新潟海上保安部	交通課長 交通課 安全対策係長	川内谷紀行 石山 稔	
	公益財団法人海上保安協会 新潟地方本部		(欠)	
	公益社団法人日本海海難防止協会	専務理事 事業部長	安藤 眞博 高野 修	

(事務局：公益社団法人 日本海海難防止協会)

2 東北地方海難防止強調運動推進連絡会議

- (1) 開催日：平成29年6月7日(水)
- (2) 場所：塩釜市 塩釜港湾合同庁舎
- (3) 出席者：別記のとおり
- (4) 会議次第：
 - ① 出席者代表挨拶
第二管区海上保安本部長
 - ② 出席者紹介
 - ③ 議長挨拶
 - ④ 議 事
 - イ 第1号議案 平成28年度事業報告及び収支決算について
 - ロ 第2号議案 平成29年度事業計画案及び収支予算案について
 - ハ その他

別記

出席者名簿

(順不同・敬称略)

団体・機関名	代表者	出席者
船員災害防止協会東北支部	支部長 太田 喜一郎	事務局長 阿部 幸一
全日本海員組合東北地方支部	地方支部長 高橋 雅幸	欠席
東北漁業無線協会	会長 佐藤 亮輔	欠席
東北港運協会	会長 西宮 公平	欠席
東北内航海運組合	理事長 平岡 清康	事務局長 木村 誠
東北旅客船協会	会長 白幡 昇一	事務局長 佐藤 健彦
一般社団法人 日本マリン事業協会東北支部	支部長 藤崎 雅実	事務局長 皆上 昌弘
NPO法人 パナソニックワークアウト安全協会東北地方本部	本部長 中西 宏紀	事務局長 高橋 勇貴
公益社団法人 東北海事広報協会	会長 佐藤 昭夫	会長 佐藤 昭夫
一般財団法人 日本海洋ビバ安全・振興協会東北事務所	所長 高橋 猛	次長 前田 浩之
一般財団法人 日本気象協会東北支局	支局長 佐伯 芳	事業サービス課長 佐藤 裕一
株式会社 日本船舶職員養成協会東北	代表取締役 高橋 雅洋	代表取締役 高橋 雅洋
日本船用機関整備協会東北支部	支部長 荒井 誠治	欠席
公益社団法人 日本海海難防止協会	会長 南波 秀憲	総務部長 木原 弘昭
公益財団法人 海上保安協会東北地方本部	本部長 太田 喜一郎	本部長 太田 喜一郎
一般社団法人 日本埋立浚渫協会東北支部	支部長 中村 俊智	事務局長 寒河江 利廣
青森県海難防止強調運動推進連絡会	会長 赤石 憲二	青森県漁業協同組合連合会 指導課主任 笹原 秀行 青森海上保安部交通課長 大山 昭義 八戸海上保安部交通課長 阿部 富二
岩手地区海難防止強調運動推進連絡会議	議長 小川原 泉	釜石海上保安部交通課長 葛西 俊悦
宮城地区海難防止強調運動推進連絡会議	議長 松浦 富雄	議長 松浦 富雄 宮城海上保安部交通課長 小野寺 一幸
秋田県海難防止強調運動推進連絡会議	議長 山本 健藏	秋田海上保安部交通課長 滝山 豊
山形県海難防止強調運動推進連絡会議	議長 齋藤 賢作	議長 齋藤 賢作 酒田海上保安部交通課長 佐藤 幸人
福島県海難防止強調運動推進連絡会議	議長 中村 育世	副議長 米澤 秋則 福島海上保安部交通課長 寶達 貴幸
東北総合通信局	局長 伊丹 俊八	無線通信部航空海上課長 狩野 成明
東北地方整備局	局長 川瀧 弘之	港湾空港防災・危機管理課長 吉田 久隆
東北運輸局	局長 尾関 良夫	海上安全環境部調整官 村田 和夫
仙台管区气象台	台長 大林 正典	気象防災部防災調査課長 小野寺 優
運輸安全委員会事務局仙台事務所	所長 武留井 武男	事故調査調整官 川崎 清隆
仙台地方海難審判所	所長 阿部 直之	書記官 渡辺 健
第二管区海上保安本部	本部長 岩崎 茂	本部長 岩崎 茂 交通部長 田中 忍 交通部企画調整官 下矢 浩介 警備救難部救難課長 大谷 啓文

(事務局：公益財団法人 海上保安協会東北地方本部)

3 海難防止強調運動日本海西部地方推進連絡会議

- (1) 開催日：平成29年6月20日(火)
- (2) 場所：舞鶴市 舞鶴グランドホテル
- (3) 出席者：下表のとおり
- (4) 会議次第：
- ① 議長挨拶
 - ② 第八管区海上保安本部長挨拶
 - ③ 議題
 - イ 平成28年度海難防止強調運動の実施状況について
 - ロ 平成28年の船舶事故発生状況について
 - ハ 平成29年度日本海西部地方海難防止強調運動実施計画等の策定について
 - ニ その他

出席者名簿

(順不同・敬称略)

構成員・関係機関団体等		役職等	氏名
構成員	日本海西部地方推進連絡会議	議長	西川 順之輔
	福井地区推進連絡会議	代表	藤田 紀雄
	京都地区推進連絡会議	代表	松本 直樹
	兵庫北地区推進連絡会議	代表	眞野 豊
	境地区推進連絡会議	代表	岩田 祐二
	石見地区推進連絡会議	代表	宮下 義重
	第八管区海上保安本部	本部長	榎本 猶一
	公益社団法人 日本海海難防止協会	会長代理	木原 弘昭
公益財団法人 海上保安協会舞鶴地方本部	事務局長	一瀬 光孝	
関係職員・関係機関団体等	第八管区海上保安本部交通部	交通部長 航行安全課長 安全対策課長 安全対策課安全対策調整官	高野 昌浩 谷岡 敦 桜川 正人 中野 明弘
	第八管区海上保安本部警備救難部	救難課専門官	林 政宏
	敦賀海上保安部	交通課長	岩崎 信之
	舞鶴海上保安部	交通課長	山本 康浩
	境海上保安部	交通課長	丸橋 隆也
	浜田海上保安部	交通課長	上村 公一
	近畿運輸局京都運輸支局	首席運輸企画専門官	稲澤 文啓

(事務局：公益財団法人 海上保安協会舞鶴地方本部)

Ⅱ 会 務 報 告

Ⅱ－１ 平成２９年度第１回理事会

- 1 開催日 平成29年5月17日(水)
- 2 場 所 ANAクラウンプラザホテル新潟
新潟市中央区万代5丁目11番20号

3 理事の現在数、出席者数

(1) 理事の現在数 23名

(2) 出席者数

出席理事 16名

監 事 2名

4 議事次第

議 事

決議事項

第1号議案 平成28年度の事業報告及び決算の書類の承認について

第2号議案 役員候補者の選任について

第3号議案 顧問の委嘱について

第4号議案 総会の日時、場所及び目的である事項の決定について

報告事項

業務を執行する理事の職務の執行の状況について

5 議事の経過及びその結果

(1) 定足数の確認

事務局から定款第38条に定める定足数を満たしている旨の報告がなされた。

(2) 議長及び議事録の署名

定款第37条の規定に基づき南波会長が議長となり、議事録の署名は定款第42条の規定に基づき、南波会長(代表理事)、高橋監事、水野監事とした。

(3) 議案の審議状況及び決議結果等

第1号議案 平成28年度の事業報告及び決算の書類の承認の件

議長の求めに応じ、事務局から平成28年度の事業報告及び決算の書類について説明した。

議長は、監事に監査報告を求め、高橋監事より監査報告書の通り指摘すべき事項はない旨報告があった。

次いで、議長が承認を諮り、審議の結果出席理事全員異議なく原案のとおり総会に上程することに決した。

第2号議案 役員候補者の選任の件

議長から協会理事の任期は2年で今年度が改選となる旨を説明し、「役員候補者名簿」のとおり選任することについて諮り、審議の結果出席理事全員異議なく原案のとおり総会の承認を得ることに決した。

第3号議案 顧問の委嘱の件

議長の求めに応じ、事務局から顧問の委嘱について説明した。

次いで、議長が、顧問の委嘱を諮り、審議の結果出席理事全員異議なく原案のとおり委嘱することに決した。

第4号議案 総会の日時、場所及び目的である事項の決定の件

議長は、総会の日時、場所及び目的である事項は理事会の決定事項である旨の説明をして決議を諮り、審議の結果出席理事全員異議なく原案のとおり決した。

なお、総会に出席できない正会員については、書面による議決権の行使、または代理人による議決権の行使が了承された。

報告事項

業務を執行する理事の職務の執行の状況について事務局から報告した。

Ⅱ－２ 平成２９年度通常総会

１ 日 時 平成 29 年 6 月 6 日（火）

２ 場 所 ANAクラウンプラザホテル新潟
新潟市中央区万代 5 丁目 11 番 20 号

３ 正会員総数及び定足数

総数 217 名、定足数 109 名

４ 出席者数及び出席役員等

(1) 出席正会員 57 名(うち代理出席者 25 名)

(2) 書面表決（賛成）正会員 138 名

(3) 来賓

第九管区海上保安本部長 下野 浩司 様

北陸信越運輸局長（代理：海事部長 伊藤 義久 様）

５ 挨拶等

南波会長の挨拶に続いて、来賓の第九管区海上保安本部長と北陸信越運輸局海事部長から祝辞があった。

６ 議 案

決議事項

第 1 号議案 平成 28 年度の事業報告及び決算の書類の承認について

第 2 号議案 役員の選任について

報告事項

平成 29 年度の事業計画書及び収支予算書等について

７ 議事の経過及びその結果

(1) 定足数の確認

事務局から定款第 18 条に定める定足数を満たしている旨の報告がされた。

(2) 議長及び議事録

定款第 16 条の規定に基づき南波会長が議長となり、議事録には、議長及び五十嵐理事、小坂理事が署名又は記名押印することとした。

(3) 議案の審議状況及び議決結果等

第1号議案

議長の求めに応じ、事務局から平成28年度の事業報告及び決算の書類について説明した。

議長は、監事に監査報告を求め、高橋監事より監査報告書に記載したとおり指摘すべき事項はない旨報告があった。

次いで、議長はその賛否を議場に諮ったところ、満場一致で異議なく承認された。

第2号議案

議長から「役員候補者名簿」のとおり選任することの賛否を議場に諮ったところ、満場一致で異議なく添付の別紙「役員候補者名簿」のとおり選任することに決した。

なお、役員の任期は、定款第27条の規定により、平成31年開催の通常総会の終結の時までである旨を告げた。

また、新役員は全員就任を承諾した。

報告事項

議長から平成29年度の事業計画書及び収支予算書等については、平成29年3月9日に開催した第2回理事会において承認された旨を告げ、資料に基づき平成29年度の事業計画書及び収支予算書等を事務局から報告した。

(別紙)

役員候補者名簿

(任期：平成29年度通常総会終了時～平成31年度通常総会終了時)

(順不同・敬称略)

【理事】

理事	南波秀憲	株式会社リンコーコーポレーション	代表取締役社長	重任
理事	西宮公平	秋田海陸運送株式会社	代表取締役社長	重任
理事	川西邦夫	伏木海陸運送株式会社	代表取締役社長	新任
理事	宮下義重	浜田港運株式会社	取締役会長	重任
理事	安藤眞博	公益社団法人日本海海難防止協会		重任
理事	五十嵐由之	東和造船株式会社	代表取締役	重任
理事	植木豊	株式会社植木組新潟支店	支店長	重任
理事	木下博	七尾水先区水先人会	会長	重任
理事	清田邦之	新潟県漁業協同組合連合会	専務理事	重任
理事	小坂徳夫	新潟水先区水先人会	会長	重任
理事	坂本和彦	株式会社三国	代表取締役社長	重任
理事	笹岡久芳	東北電力株式会社東新潟火力発電所	副所長	新任
理事	佐藤賢一	佐渡汽船株式会社	常務取締役	重任
理事	志田知隆	株式会社加賀田組	常務執行役員営業本部長	重任
理事	西川順之輔	京都府漁業協同組合	代表理事組合長	重任
理事	日野雅博	東亜建設工業株式会社北陸支店	支店長	新任
理事	細川英邦	株式会社細川産業	代表取締役	重任
理事	松浦安洋	酒田水先区水先人会	会長	重任
理事	村上博	北越物流株式会社	代表取締役社長	新任
理事	森脇啓治郎	境水先区水先人会	会長	新任
理事	八島進	日本海エル・エヌ・ジー株式会社	取締役社長	重任
理事	山田浩一	東洋建設株式会社新潟営業所	所長	重任
理事	渡邊哲	株式会社本間組	土木事業本部 部長	重任

【監事】

監事	高橋皓	富士運輸株式会社	専務取締役	重任
監事	水野雄司	日本海曳船株式会社	代表取締役社長	重任

Ⅱ－３ 平成 29 年度第 2 回理事会

1 開催日 平成 29 年 6 月 6 日(火)

2 場 所 ANAクラウンプラザホテル新潟

新潟市中央区万代 5 丁目 11 番 20 号

3 理事の現在数、出席者数

(1) 理事の現在数 23 名

(2) 出席者数

イ 出席理事 15 名

ロ 監 事 2 名

4 議 案

決議事項

議 案 業務執行理事の選定について

5 議事の経過及びその結果

(1) 定足数の確認

事務局から定款第 38 条に定める定足数を満たしている旨の報告がなされた。

(2) 議長及び議事録の署名

定款第 37 条第 2 項の規定に基づき出席理事の互選で南波理事が議長となり、議事録には代表理事及び高橋監事、水野監事が署名又は記名押印することとした。

(3) 議案の審議状況及び議決結果等

議長の求めに応じ、事務局から業務執行理事の候補者について説明した。

次いで、議長が、候補者選定を諮り、審議の結果出席理事全員異議なく原案のとおり代表理事会長に南波秀憲理事を、副会長に西宮公平理事、川西邦夫理事、宮下義重理事を、専務理事に安藤眞博理事を選定することに決した。

なお、上記被選任者はいずれも席上就任を承諾した。

Ⅱ－４ 業務日誌抄

月 日	内 容	
5月10日(水)	18万m ³ 級モス型LNG運搬船の直江津港入出港に係る調整会議 現地調査及び第1回調整会議	(上越市)
5月17日(水)	平成29年度 第1回理事会	(新潟市)
5月25日(木)	平成29年度 事業推進連絡会議	(新潟市)
6月6日(火)	平成29年度 通常総会及び第2回理事会	(新潟市)
6月7日(水)	平成29年度東北地方海難防止強調運動推進連絡会議	(塩釜市)
6月9日(金)	舞鶴港大型客船入出港に係る航行安全調査 第2回委員会	(舞鶴市)
6月13日(火)	平成29年度 日本海中部地方海難防止強調運動推進連絡会議	(新潟市)
6月14日(水) ～15日(木)	18万m ³ 級モス型LNG運搬船の直江津港入出港に係る調整会議 ビジュアル操船実験	(川崎市)
6月20日(火)	新潟港(東港区)大型客船入出港に係る航行安全調査 作業部会	(新潟市)
〃	平成29年度 海難防止強調運動日本海西部地方推進連絡会議	(舞鶴市)
6月27日(火)	日本海中部海域における簡易型AIS普及に関する調査研究 (富山・石川県地区) 第1回委員会	(富山市)
6月30日(金)	平成29年度 防災連絡会議	(新潟市)
7月3日(月) ～4日(火)	舞鶴港大型客船入出港に係る航行安全調査 ビジュアル操船実験	(川崎市)
7月6日(木)	第51回新潟地区気候情報連絡会	(新潟市)
7月13日(木)	伏木富山港(伏木地区)大型客船入出港に係る航行安全調査 第1回委員会	(富山市)
7月21日(金)	新潟港(東港区)大型客船入出港に係る航行安全調査 第2回調査会	(新潟市)
7月25日(火)	青森港大型客船入出港に係る航行安全調査 第1回委員会	(青森市)
7月26日(水)	青森港港湾計画変更(一部変更)に係る航行安全対策調査 委員会	(青森市)
8月3日(木)	舞鶴港大型客船入出港に係る航行安全調査 作業部会	(舞鶴市)
8月22日(火)	舞鶴港大型客船入出港に係る航行安全調査 第3回委員会	(舞鶴市)

月 日	内 容
8月24日(木)	秋田港火力発電所(仮称)建設計画に係る航行安全調査 第1回委員会 (秋田市)
8月25日(金)	秋田港大型客船入出港に係る航行安全調査 第1回委員会 (秋田市)
8月29日(火)	18万m ³ 級モス型LNG運搬船の直江津港入出港に係る調整会議 作業部会 (新潟市)
〃	第1回 船員災害防止連絡会議 (新潟市)

Ⅱ－5 業務予定

- (1) 青森港大型客船入出港に係る航行安全調査 第2回委員会 平成29年 9月 5日
- (2) 18万m³級モス型LNG運搬船の直江津港入出港に係る調整会議
第2回調整会議 平成29年 9月14日
- (3) 秋田港大型客船入出港に係る航行安全調査 第1回作業部会 平成29年 9月21日
- (4) 青森港大型客船入出港に係る航行安全調査 ビジュアル操船実験 平成29年 9月26日
～27日
- (5) 秋田港火力発電所(仮称)建設計画に係る航行安全調査
ビジュアル操船実験 平成29年 10月 2日
～3日
- (6) 秋田港大型客船入出港に係る航行安全調査 第2回委員会 平成29年 10月12日
- (7) 伏木富山港(伏木地区)大型客船入出港に係る航行安全調査
ビジュアル操船実験 平成29年 10月18日
～19日
- (8) 秋田港港湾計画改訂に係る航行安全調査 第1回委員会 平成29年 10月24日
- (9) 秋田港大型客船入出港に係る航行安全調査 ビジュアル操船実験 平成29年 11月 6日
～7日
- (10) 青森港大型客船入出港に係る航行安全調査 作業部会 平成29年 11月 15日
- (11) 秋田港火力発電所(仮称)建設計画に係る航行安全対策調査
第2回委員会 平成29年 11月29日
- (12) 秋田港大型客船入出港に係る航行安全調査 第2回作業部会 平成29年 12月14日
- (13) 秋田港港湾計画改訂に係る航行安全調査 第2回委員会 平成29年 12月15日
- (14) 伏木富山港(伏木地区)大型客船入出港に係る航行安全調査
作業部会 平成29年 12月 下旬
- (15) 会報第122号発行 平成30年 1月 下旬

Ⅲ 寄稿欄

神祖熊野大神奇御食野尊という神様

元舞鶴事務所長 山本勝眞

以前（5年前ころ？）このシリーズの第7話（会報97号 平成21年8月発行）で、この神様には触れたことがあるのですが、今回は、「舞鶴の神様たち」（神社の紹介）から離れて、出雲の偉大な神様、「^{すきのおのみこと}素戔之男尊」のお話をしてみたいと思います。

京都の夏の風物詩、^{やさか}八坂神社の祇園祭も終わりました。

ところで八坂神社は、明治の神仏分離の前は、祇園社と呼ばれていました。

祇園というのは、平家物語の冒頭の「祇園精舎の鐘の聲、諸行無常の響あり・・・」の「祇園」がもとになっています。

「祇園精舎」というのは、仏教の聖地（インド）にある僧院のことで、仏教に深いかわりのある呼び名であります。

この僧院を守る神様は、^{ごず}牛頭天王でありました。

日本では、牛頭天王は素戔之男尊のことであり、日本各地の素戔之男尊を祀る神社は、祇園さんと呼ばれる神社が多いのです。

祇園が仏教のお寺であるため、神仏分離が行われた明治以後は、それまでの祇園社は、八坂神社と呼ばれるようになりました。あるいは弥栄神社と呼ばれるものもあります。

しかしながら、祇園という名称は、日本各地に神社名あるいは祭りの名前、さらには地名として沢山残っており、その代表格が、京都の祇園あるいは祇園祭であります。



京都八坂神社（祇園社）



すさのおのみこと
素戔之男尊 (八重垣神社壁画)

ちなみに、これら素戔之男尊を祀る、祇園社あるいは八坂神社(神社名は違う場合があります)は、青森から鹿児島に至る各地に数多く存在しております。

もちろん、それらの神社には、現在も祇園祭が行なわれておりますから、7月は祇園祭オンパレードという感じですね。

本題に入りますが、素戔之男尊とはどんな神様なのでしょう。

諸説あるのですが、ざっとプロフィールをご紹介しますと。

素戔之男尊は122年(2世紀初め)ころ出雲の国沼田郡(現在の平田市宮西町)でお生まれになりました。父神様は「布都」とよばれる神様で、尊はそこ「布都斯」と呼ばれていました。

尊、二十歳のころ(142年ごろ)、当時出雲第一の豪族といわれた八俣遠呂智が、拉致して連れ帰った美女櫛稲田姫を、遠呂智の館に切り込んで斃し、姫を奪い返したという木次事件が起きました。

この事件により、尊は一躍この地方に勇者としてデビュー。救われた櫛稲田姫は、尊の妻となりました。

この時、尊が詠まれた「八雲立つ 出雲八重垣 妻ごみに 八重垣作る その八重垣を」という歌は、日本最古の歌といわれており、この歌によってこの国を出雲と呼ばれるようになったと伝わっています。

また、八俣遠呂智を切った刀は、「布都御魂の劔」という名前で奈良県天理市の石上神宮に保管されています。



くしいなだひめ
櫛稲田姫 (八重垣神社壁画)

この木次事件は、古事記では、八岐大蛇退治の物語になっており、広く有名な神話の一つともなっています。

木次事件をきっかけに次第に頭角を現わしていった尊は、三十五歳ころには、出雲や近隣の山陰地方の頭領と仰がれるようになり、四十歳ころには、北陸地方から長門地方にいたる、山陰沿岸の国々をすべて支配下におさめられています。



おおひるめむちのみこと さより
大日靈女 貴尊 と 狭依姫 (八重垣神社壁画)

173年、尊五十歳のころ、第五子
おおとしのみこと にぎはやひの
大歳尊 (後の倭の大王 饒速日
みこと
尊 で、当時二十歳頃) とともに九州
地方に遠征を開始。177年、尊五十五
歳のころ日向の国 (たかまがはら
高天原) を勢力
下におさめられました。

当時日向の国は てんそん
天孫族の国で、出
雲の国にくらべると温暖で住みやすく、
穀物もよく獲れ、九州地方を統治する
には大変重要な拠点であったようです。

このとき、現在の宮崎県西都市におられた天孫族の おおひるめむちのみこと
大日靈女 貴尊 (卑弥呼・天照大神)
と結ばれます。

そして、大日靈女貴尊との間に、三人のお姫様がお生まれになりました。

このお三方は、今度世界文化遺産として推薦候補になっている福岡県の「宗像・沖ノ島、関連遺産群」の沖津島、中津島、辺津島にそれぞれ へつ たぎり たごり たぎつ さより
多紀理姫 (あるいは田心姫) 多岐津姫 狭依
姫 (あるいは いちきしま
市杵島姫) として祀られておられます。

ちなみに、素戔之男尊と櫛稲田姫との間には五男・三女神がおられ、この親子十柱の神様は、京都八坂神社に合祀されているのです。

尊は、185年ごろ六十三歳くらいでなくなられたようです。

御最後は、出雲の国の八束郡八雲村 (現松江市) の熊野の地で、現在その地には大変立派な神社が鎮座されていますが、もちろんご祭神は、素戔之男尊と櫛稲田姫です。

以上、素戔之男尊のご身上をご紹介しますが、身上について古事記などでは、尊の親神様は、伊弉諾・伊弉冉いざなぎ いざなみで、天照大神のお姉さまということになっています。

姉弟の間で子供が生まれるというのは常識的におかしな話で、何かの思惑があって神話の話としてしまったのではないかと考えられます。

ところでこの素戔之男尊の諡号を、おくりな かむろぎくまのおおかみくしみ けぬのみこと かむろぎくまのおおかみくしみ けのみこと「神祖熊野大神奇御食野尊」(加夫呂伎熊野大神櫛御氣野尊とも表記)ともうされ、つまりこの文の表題に掲げたのは、尊の諡号であります。



島根松江市熊野大社

先に、お亡くなりになられた地を、出雲の国の八束郡八雲村（現松江市）の熊野の地と申しました。

「熊野」といえば、紀州の熊野を真っ先に思い浮かべられる方は大勢いらっしゃるでしょう。

実は熊野という地は他にもありまして、出雲の国の熊野（現松江市八雲町）もその一つです。

「古代日本正史」の著者原田常治氏は、同著書に、和歌山県の熊野三神（新宮、本宮、那智宮）の神様について触れておられるなかで、『熊野の地名は十二代景行天皇のとき、今の新宮市に、素佐之男の死んだ出雲の熊野、またその諡号の「神祖熊野大神」の名をとって「熊野」という地名になった。』とっておられます。

現熊野市は、熊野本宮大社のある和歌山県とは違い、三重県南部にあります。



和歌山熊野大社

そして、紀州の熊野本宮大社は、和歌山田辺市本宮町が所在地です。

昔は、和歌山三重の南部、南紀一帯を熊野と呼んでいたのかもしれませんがね。

「素佐之男」とは、まさに素戔之男尊のことです。

いったことのある人には説明の必要はありませんが、島根の八雲町熊野の熊野神社も大変立派なお社（前ページの写真）で出雲一宮ということでもあります。

出雲の国では、出雲大社があまりにも有名ですし、前出の和歌山熊野本宮大社のほうが知名度が高いため、出雲の熊野大社の名を知っておられる方は、案外少ないのかもしれないね。

実は、全国には「熊野神社」と名がつく神社は、無数にあるそうです。古事記（712年編纂）以前に祀られたものも多く、だいたい素戔之男尊と饒速日尊（素戔之男尊のご三男）が合祀されているとのこと。

ちなみに、私の住む舞鶴市内にも、熊野神社は十社以上あります。

舞鶴市の中心にある五老ヶ岳公園。この公園は、大変風光明媚な舞鶴湾が一望に見わたせる市民の憩いの場となっている標高300メートル余りの山ですが、登山のための遊歩道「ロータリーの道」の途中に、その一つの熊野神社はひっそりと鎮座しておられます。

小さな神社で、由緒書きなどが見当たりませんので、確かなことはわかりませんが、きっと素戔之男尊、饒速日尊の親子神さまが祀られているに違いないと思います。出雲族のしかも古代に活躍された大変偉大な方々が祀られているということで、五老ヶ岳公園に上るときは、畏敬の念を抱いておまいりしています。

お断り

本稿に挿入した写真について

私は残念ながらわが故郷であるにもかかわらず、島根県松江市の八重垣神社と熊野神社には、いまだお詣りできていません。

そこでインターネットのグーグル画像検索から、八重垣神社の壁画と熊野神社の写真を使わせていただきました。

敦賀港の海図が新しくなりました

第八管区海上保安本部海洋情報部

敦賀港は、若狭湾東部の敦賀湾奥に位置する港で、北海道苫小牧港との定期フェリー航路やRORO 船航路による物流の拠点であり、また、対岸諸国との貿易の拠点港としての歴史も深く、韓国（釜山）、中国（上海・寧波）との間に定期コンテナ船の航路を有しているなど、環日本海時代に対応した流通港湾としての重要な役割を担っています。

新しい海図は、第八管区海上保安本部が平成28年に実施した最新の測量成果や港湾情報等を取り入れ平成29年8月に発行しました。

敦賀港を利用する船舶がより安全に航行できるとともに、利便性の向上に寄与します。

海図は、最寄りの水路図誌販売店又は取次店で購入できます。

海図の購入方法及び水路図誌販売店及び取次店については、(一財)日本水路協会のWebページをご覧ください

URL <http://www.jha.or.jp/jp/jha/purchase>

海 図 概 要	海図番号	図名	縮尺
	W117	敦賀湾付近	1/30,000
		(分図)敦賀港	1/10,000
		丹生ノ浦接続図	1/30,000



“あなたの命を守るため、救命胴衣の着用を”

～鳥取県が救命胴衣購入補助制度を導入～

第八管区海上保安本部交通部安全対策課

平成28年12月、島根県松江市沖の日本海において、沖合底引き網漁船「大福丸」が沈没し、乗組員4人が死亡、5人が行方不明となる悲惨な事故が発生しました。

鳥取県は、この事故を受けて、関係機関との調整及び県議会（2月定例会）での審議を経て、漁業操業安全緊急対策事業として、平成29年4月1日から救命胴衣購入補助制度（補助率1/2、上限額2万円）を開始しています。

本補助制度の利用は、関係機関（鳥取県水産課、鳥取運輸支局、境海上保安部ほか）の連携で実施する漁船安全講習を受講することが条件であり、漁業者を対象とした漁船安全講習会は6月20日から8月24日までに9回開催され、451人受講しました。

また、8月23日には、鳥取県内の行政・漁業関係者ら約20人が参加する救命胴衣着用推進会議（主催：鳥取県・境海上保安部）が開催され、「昨年、鳥取県内の漁船から海中転落した18人全員が救命胴衣を未着用であったこと」が報告されたほか、境海上保安部長は、「二度と悲惨な事故を起こしてはいけない。自身の命は自分で守り、地域住民や家族からも漁業者に呼びかけて救命胴衣着用の機運を高めることが大切。」と訴えました。

〈鳥取県広報（2017.06.16）「平成29年度漁船安全講習会の開催」（8月24日終了）

<http://db.pref.tottori.jp/pressrelease.nsf/0/D3CE8C0870FB2D6A4925813F002BF630?OpenDocument> >



漁船安全講習会



救命胴衣着用推進会議



救命胴衣着用義務化

大型船漂流による乗揚げ防止のために

大型船漂流事案の多発

第八管区海上保安本部交通部 航行安全課

日本海では大型船が機関故障により漂流し、海上保安庁への通報等の大幅な遅れから、陸岸に
乗揚げ寸前まで接近する事案が、平成29年になってから立て続けに3件発生しています。



発生日：平成29年1月13日
海域：島根県浜田沖
原因：機関故障
船種：コンテナ船
総トン数：約9,000ト
漂流時間：約23時間
陸岸からの距離：約41km



発生日：平成29年2月2日
海域：福井県小浜沖
原因：機関故障
船種：コンテナ船
総トン数：約4,000ト
漂流時間：約8時間
陸岸からの距離：約600m



発生日：平成29年7月1日
海域：京都府舞鶴沖
原因：機関故障
船種：コンテナ船
総トン数：約7,000ト
漂流時間：約47時間
陸岸からの距離：約3.7km
(舞鶴沖から金沢沖まで漂流)

冬の日本海の危険性

冬の日本海で船舶が漂流した場合、北西寄りの強い季節風及び海流の
影響により、非常に短時間で陸岸方向へ圧流されます。
さらに、コンテナ船や自動車運搬船など風圧面積が大きな船舶ほど
乗揚げの危険性が高く、救助船の到着が遅れると一刻を争う緊急事態
となります。



海上保安庁の対応

海上保安庁では、このような事故を未然に防止するため、
○ 海事関係者等を通じて、当庁への早期通報等の指導・徹底について協力を依頼
○ AISメッセージによる航行船舶への注意喚起
○ 船舶代理店及び入港船舶へのリーフレット配布による注意喚起
を実施します。

《リーフレット次ページ》

緊急事態が発生したら

大型船が機関故障等により漂流するなどの緊急事態が発生した場合は、**早期の対応
が重要**となりますので、以下の3点について遵守・徹底をお願いします。

○ 海上保安庁への早期通報！

○ サルベージ会社との早期契約！

○ 代理店の早期設定！



冬の日本海は要注意！！

～大型船の乗揚げを防ぐために～

最近、半年間に、大型船が機関故障により漂流し、当庁への通報等の大幅な遅れから、陸岸に乗揚げ寸前まで接近する事案が、立て続けに3件発生しています。

船舶トラブル発生、通報等が遅れると・・・

漂流

救助船の到着が遅れ・・・

漂流

乗揚げ発生！油が大量流出するなど、大規模災害へと発展する可能性も！

緊急事態！

★緊急事態が発生したら

- 1 海上保安庁への早期通報！
- 2 サルベージ会社との早期契約！
- 3 代理店の早期設定！

～冬の日本海の特徴～

冬の日本海は、北西寄りの強い季節風及び海流の影響から、漂流すれば、非常に短時間で陸岸方向へ圧流されます。特に、コンテナ船のような風圧面積の大きい船舶は、乗揚げの危険性が高まることから、救助船の到着が一刻を争う緊急事態となります。



海上保安庁
Japan Coast Guard

10月は全国漁船安全操業推進月間です！

第八管区海上保安本部交通部安全対策課

秋から冬にかけて、日本海ではズワイガニ漁などが盛んになりますが、第八管区海上保安本部では、平成29年10月1日から15日間、漁業関係者への漁船事故防止及び安全意識の向上を図るため、

「常時適切な見張りの徹底」、

「気象海象等の情報把握と操業可否の適切な判断」、

「ライフジャケット着用等自己救命策の確保」

を重点事項に掲げ、

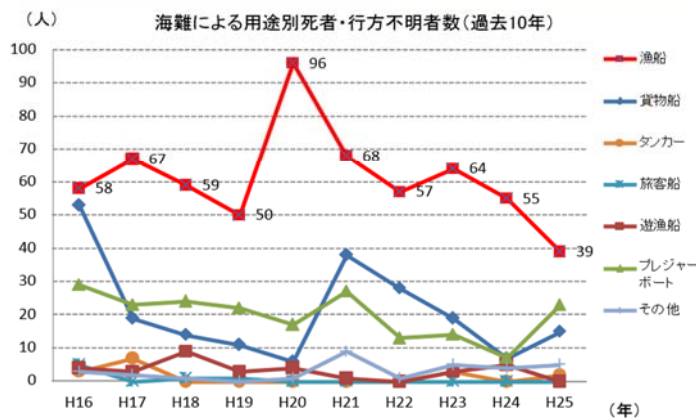
「漁船事故ゼロキャンペーン」を展開します。

10月は全国漁船安全操業推進月間です！

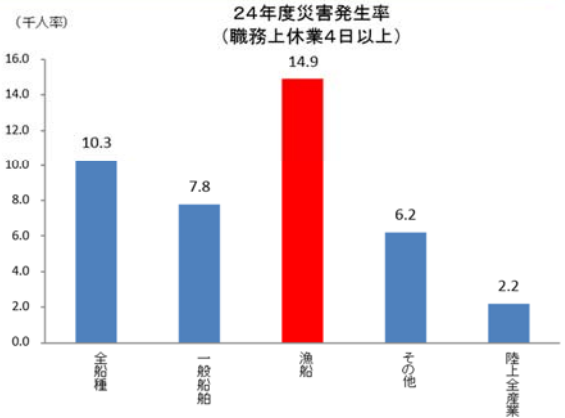
目的

- ・漁船安全操業に関する漁業者意識の向上
- ・ライフジャケット着用率の向上等による人身事故発生の減少
- ・安全航行・安全操業の徹底による漁船海難発生等の減少

漁船での操業は、いつも危険と背中合わせです
(海難による死者・行方不明者の約5割が漁船、労働災害発生率は陸上産業の約7倍です)



出典:海上保安庁「第8回関係省庁海難防止連絡会議資料」



出典:国土交通省海事局「船員災害疾病発生状況報告書(船員法第111条)」

農林水産省 HP より

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/gyosei/attach/pdf/index-1.pdf>

漁船事故ゼロ

キャンペーン

10.1(日)~15(日)

家族は、あなたが元気で
帰ってくるのを待っています。

重点事項

- ・ 常時適切な見張りの徹底
- ・ 気象海象等の情報把握と操業可否の適切な判断
- ・ ライフジャケットの常時着用等自己救命策の確保

※平成30年2月1日以降、小型船舶の船室外の甲板上では、原則、すべての乗船者にライフジャケットを着用させることが、船長の義務になります。



海のもしものは 118 番

第八管区海上保安本部



海の安全情報

「救命具 つける勇気が 身を守る」

「油断する 心がまねく 海の事故」

会 報 第 1 2 1 号

平成 29 年 9 月 発行

発 行 所 新潟市中央区竜が島 1 丁目 9 番 2 号
公益社団法人 日本海海難防止協会
〒 9 5 0 - 0 0 7 2
電 話 (025) 247-8531
F A X (025) 247-0316
E-mail nikkaikb@poem.ocn.ne.jp
URL <http://nikkaikb.com/>
印 刷 所 株式会社 ウィザップ

